

DV・性暴力被害にかかわる

支援者のための研修講座 2021



コース 各コースとも全期を修了した方に修了証を発行しています。

Aコース 現在支援活動をしている方、これから活動しようとしている方、すべての方が対象です。

定員80名 できるだけ全期を通してご参加ください。 4-5ページ

Rコース NPO法人レジリエンスプログラム + 認定NPO法人CFJ RIFCR™プログラム
現場の実際に即した内容で構成されています。Aコースを修了された方が対象です。

定員 90 名 1期2期：NPO 法人レジリエンスが担当します。1期2期を通してご参加ください。

定員 35 名 3期：認定NPO 法人CFJ が担当します。 6-7 ページ

SANEコース 性暴力被害対応看護職養成講座 看護職（看護師、助産師、保健師）の女性が対象です。

定員30名 Aコースを修了していること、全期すべてに参加することが条件です。 8-9ページ



日程 プログラムは3期に分かれています。

1期 2021年 7月 10日(土) 11日(日)

2期 2021年 11月 6日(土) 7日(日)

3期 2022年 2月 12日(土) 13日(日)

☆1期：全コースオンライン開催

3期：Rコース(RIFCR™)会場開催

その他のコースは感染状況を見て会場開催も検討します。



会場 東京有明医療大学 東京都江東区有明2-9-1

〈交通〉 りんかい線（大井町ー新木場）「東雲（しのめ）駅」から徒歩約13分

ゆりかもめ線（新橋ー豊洲）「有明テニスの森駅」から徒歩約10分

都営バス（東京駅八重洲口・丸の内口から、門前仲町から）「有明小中学校前」から徒歩約2分

※詳しくは、<http://www.tau.ac.jp/siteinfo/access/>東京有明医療大学ホームページ交通案内をご覧ください。

- 1期 **A1 研修講座ガイダンス 柘植あづみ / 対人援助におけるコミュニケーションの基礎 丹野真紀子**
「女性の安全と健康のための支援教育センター」が研修講座を実施してきた目的と目標などを説明する。
その後、講座の導入として、対人援助をする人たちのコミュニケーションの取り方の基礎的ワークをする。
- A2 リプロ①からだ 歴史 麻鳥澄江**
「私のからだは私のもの」という言葉で、1970年代、おんたちの性と生の解放運動が始まった。それはDVや性暴力被害について「沈黙を破る」当事者運動でもあった。それから50年近くたつ今、おんたちの状況は。
- A3 女性への暴力と社会構造 角田由紀子**
なぜ、女性への暴力が肯定され、助長され、容認されてきたのか。社会構造へ深く視野を拡げることで問題の核心に迫り、より確かな支援者を目指す。
- A4 性暴力被害と支援 山本潤**
性暴力という言葉が聞かれるようになって久しいが、性暴力とは何か、どういう体験であるのかという事が理解されることは少ない。性暴力は被害者に何をもちたらずのか、その影響と必要とされる支援について共に考える。
- A5 暴力被害相談：基本的な考え方と実際 池田ひかり**
DVや性暴力などの被害を経験した女性に対する支援の基本姿勢や心理教育、情報提供の仕方、関係機関との連携のとり方、相談時の配慮など基本的なことを学ぶ。
- A6 行政の各種支援制度と活用について 中鉢美之**
複合的困難を抱えた被害女性の支援には、様々な制度を組み合わせた対応が必要になる。関連分野の制度を十分に把握して、有効に制度活用できる力をつけよう。
- A7 障害のある女性と複合差別 佐々木貞子**
障害のある女性は性差別と障害者差別を複合的に受けている。視覚障害当事者である講師も同様だ。障害のある女性が置かれている現状と、適切な支援のあり方を学ぶことによって、社会の側の課題をしっかりと共有したい。
- A8 女性労働問題・ジェンダー格差 皆川満寿美**
支援員として働く人にとっても、相談現場で出会う人にも、現実の労働問題を理解することは重要である。日本の企業は女性労働者をどう扱っているのか、なぜ雇用におけるジェンダー格差はこれほど大きいのか、考えてみたい。
-
- 2期 **A9 リプロ②医療と女性の人権 大橋由香子**
刑法堕胎罪の例外規定として中絶を許可した優生保護法は、危険な闇堕胎から女性を救ったと同時に、強制的な不妊手術や中絶も推進してきた。人口政策が女性の身体、人生に及ぼす影響について考える。
- A10・A11 ワーク：対人支援の基礎を固める 金香百合**
当事者の回復とエンパワーを支援する対人援助者としての自覚をもち、自らの言動や価値観に対する敏感さを磨く。
自己理解・他者理解・社会状況を総合的に深める。人間理解として、自尊感情や暴力の連鎖についても学ぶ。
- A12 セクシュアリティ：ジェンダー規範（仮） 講師：未定**
- A13 シングルマザー、貧困 大原康子**
日本のシングルマザーの8割は就業しているにもかかわらず、5割は相対的貧困の状況にあります。
シングルマザーはなぜ貧困に陥るのでしょうか？法制度、雇用慣行、家族観、ジェンダー等の観点から考察します。

1期 7月10日(土)				
10:00~11:20	11:40~13:00	13:00~14:20	14:20~15:40	16:00~17:20
A1 コミュニケーションの 取り方	A2 リプロ① からだ 歴史	昼食	A3 女性への暴力と 社会構造	A4 性暴力被害と支援
柘植あづみ/丹野真紀子	麻鳥澄江		角田由紀子	山本潤
2期 11月6日(土)				
A9 リプロ② 医療と女性の人権	A10 ワーク：対人支援の 基礎を固める	昼食	A11 ワーク：対人支援の 基礎を固める	A12 セクシュアリティ： ジェンダー規範（仮）
大橋由香子	金香百合		金香百合	未定
3期 2月12日(土)				
A17 女性の自立支援	A18 若年女性が抱える 性の問題とその支援	昼食	A19 回復する力、 その後の不自由	A20 外国人女性への支援
熊谷真弓	染矢明日香		上岡陽江	皆川涼子

A14 子どもの虐待とその支援 平尾幸枝

虐待を受けた子どもとその支援についての基礎的なことを学び、現状の問題点や今後の課題などを民間団体（子どものシェルター）の活動から見える実態も交えて考える。

A15 サバイバーとアディクション 湯本洋介

暴力被害を受けた人のトラウマと、アディクション（嗜癖）ーアルコール・薬物依存、ギャンブル依存などの基礎知識、医療的ケアと回復について専門医に学ぶ。

A16 DV、性暴力とトラウマ 菊池美名子

女性に対する暴力は、女性の身体だけでなく、ここにも深い傷を残すことが多い。その後PTSDと呼ばれる精神症状に長く悩まされることもある。心の傷と回復について、最前線の治療援助、調査研究を知る。

3期 **A17 女性の自立支援 熊谷真弓**

女性問題の視点から女性福祉を考え、母子生活支援施設、生活保護女性更生施設、精神障害者総合支援法施設、婦人保護施設などの現場で働いてきた講師の経験から学ぶ、女性の自立支援の課題、関係機関との連携、そして支援職について。

A18 若年女性が抱える性問題とその支援 染矢明日香

SNSが若い世代にも浸透する中で、性暴力・DV被害、思いがけない妊娠、性感染症、将来的な不妊など、若年女性が抱える性の課題とその支援について考える。

A19 回復する力、その後の不自由 上岡陽江

子ども時代の被虐待経験やその後の性暴力被害、DV被害、薬物中毒、売春という「犯罪」など、たび重なるトラウマを生きてのびてきた女性たちの物語から、回復の道筋をたどる。

A20 外国人女性への支援 皆川涼子

暴力被害にあった外国籍の女性への司法支援に取り組んでいる援助者から、被害実態や被害女性をとりまく困難な状況、被害者が外国籍の場合の留意点などを学ぶ。

A21 記録の取り方 池田ひかり

記録をとる目的、支援に役立つ記録の書き方・活用の仕方、記録の開示などを具体的に学ぶ。

A22 支援現場に必要な法的知識 森あい・片岡麻衣

DV、性暴力の支援において、司法のしくみはどうなっているのか。関連法律にはどのようなものがあるのか。弁護士の役割や探し方についても知る。

A23 DV・虐待によるトラウマを前提とした支援 中島幸子・西山さつき

親密な相手からの暴力は女性にどのような混乱をもたらすのか。そのしくみを知り、混乱からの回復のために必要なことについても考える。

A24 リプロ③生殖における自己決定 柘植あづみ

体外受精、代理出産、出生前検査……生殖技術が進展する一方で、女性たちが被る精神的・身体的苦痛は語られることが少ない。妊娠・出産・不妊治療・流産・婦人科診療をめぐる女性たちの語りから医療における女性の人権を考える。

1期 7月11日(日)					
9:30~10:50	11:10~12:30	12:30~13:30	13:30~14:50	15:10~16:30	16:30~17:00
A5 暴力被害相談： 基本的な考え方と実際	A6 行政の各種支援制度と 活用について	昼食	A7 障害のある女性と 複合差別	A8 女性労働問題・ ジェンダー格差	ふりかえり
池田ひかり	中鉢美之		佐々木貞子	皆川満寿美	
2期 11月7日(日)					
A13 シングルマザー、 貧困	A14 子どもの虐待と その支援	昼食	A15 サバイバーと アディクション	A16 DV、性暴力と トラウマ	ふりかえり
大原康子	平尾幸枝		湯本洋介	菊池美名子	
3期 2月13日(日)					
A21 記録の取り方	A22 支援現場に必要な 法的知識	昼食	A23 DV・虐待によるトラ ウマを前提とした支援	A24 リプロ③ 生殖における 自己決定	ふりかえり
池田ひかり	森あい・片岡麻衣		中島幸子・西山さつき	柘植あづみ	

NPO 法人レジリエンスプログラム

1期 R1 オリエンテーション

R2 SA101 中島幸子

性暴力被害についての基礎的な理解を深める。被害者を理解して傍に寄り添う支援者が増えることで、性暴力のない安全な環境・社会を目指す。

R3 新型コロナウイルス感染拡大とトラウマ 中島幸子・西山さつき

新型コロナウイルス感染拡大やリモートワークの拡充により、DVや虐待は悪化する傾向にある。また、コロナ禍においては、トラウマの症状の悪化、再燃などに苦しむ方も少なくない。コロナ禍においての、当事者の状況理解と対応を考える。

R4 暴力の影響：解離 中島幸子・西山さつき

被害がもたらす解離は、支援の現場でも理解されていれにくい症状のひとつである。解離の症状や当事者の日常生活の困難を理解し、より良い支援の在り方を考える。

R5・R6 グリーフ（傷つきによる喪失に伴う反応） サバイバーセンターの在り方 中島幸子・西山さつき

死別などの喪失に伴う心身の反応や感情をグリーフと呼ぶ。暴力被害などの傷つき経験も様々なものを喪失し、グリーフワークが必要となる。米国でのグリーフワークを行う施設の在り方から、暴力被害者のグリーフワークを学ぶ。米国で家族の中の暴力被害対応を行うワンストップセンターの視察報告から、サバイバーセンターのあり方を考える。

R7 ストーカー行為・リスクアセスメント 中島幸子

ストーカー被害への理解、当事者が抱える困難について学ぶ。米国で実際に用いられている資料を使用してリスクアセスメントについて考える。

R8 ディスカッション 中島幸子・西山さつき

参加者の方同士の研修内容のふりかえりのディスカッションを行い、感想や質問を共有する。

1期 7月10日(土)				
10:00~10:30	10:30~13:00	13:00~14:20	14:20~15:40	16:00~17:20
R1 オリエンテーション	R2 SA101 (途中20分休憩)	昼食	R3 新型コロナウイルス感染拡大と トラウマ	R4 暴力の影響：解離
中島・西山	中島幸子		中島幸子・西山さつき	中島幸子・西山さつき
2期 11月6日(土)				
10:00~11:20	11:40~13:00	13:00~14:20	14:20~15:40	16:00~17:20
R9 トラウマの反応を理解する	R10 デートDV予防教育の 実践と効果	昼食	R11 モラルハラスメント	R12 代理受傷と受動的攻撃 (PA)
中島幸子・西山さつき	西山さつき		中島幸子・西山さつき	中島幸子・西山さつき

認定NPO 法人CFJ RIFCR™ プログラム

☆RIFCR™とは☆

RIFCR™ (リフカー) とは、子どもの周囲にいる大人が、性虐待・身体的虐待・ネグレクト・DVの目撃等、人には話づらい経験をしたことが疑われる子どもに対してどのように面接し、何を聞くべきで、何を聞くべきでないかということを半構造化した面接プロトコルです。

☆プログラムの内容☆

- ・子どもは性虐待をどのように経験するのか
- ・虐待を打ち明けるプロセス
- ・子どもの性的発達
- ・日本の児童保護制度・RIFCR™ (リフカー)プロトコル

2期 R9 ト라우マの反応を理解する 中島幸子・西山さつき

トラウマは自律神経に不調をもたらし、被害者に様々な生きづらさや悪影響をもたらす。被害者のトラウマ反応を理解し、寄り添う支援の在り方を考える。

R10 デートDV予防教育の実践と効果 西山さつき

若年層に向けて行うデートDV予防の教育の目的と期待できる効果について考える。学校での予防教育の実施の方法や効果的な開催方法について検証する。

R11 モラルハラスメント 中島幸子・西山さつき

モラルハラスメントと表現される暴力について実態と被害者の影響を考える。モラルハラスメントという言葉が支援の中でどう活用するかも考える。

R12 代理受傷と受動的攻撃 (PA) 中島幸子・西山さつき

被害者と接する中で支援者にトラウマを経験した時と同じようなトラウマ反応（代理受傷）が生じることがある。支援者の代理受傷は、受動的攻撃という分かりにくい形で被害者に向いてしまうこともある。より良い支援のために支援者ひとりひとりができるセルフケアについて考える。

R13 性虐待 R14 ワーク 中島幸子・西山さつき

子どもが巻き込まれる性虐待の実態、影響などについて学ぶ。子どもをケアする立場の大人からの被害により複雑に傷ついていく子どもの状況と、その後に辛さについても触れていく。

R15 加害者とは・境界線を理解する 中島幸子・西山さつき

多くの被害者から「DV加害者は変わるのか」という質問が寄せられる。加害者が「変わる」とはどのような状態なのか。何をもち「変わった」と言えるのかなど加害者について知る。境界線の在り方からの関係性についてもふれていく。

R16 ディスカッション 中島幸子・西山さつき

参加者の方同士の研修内容のふりかえりのディスカッションを行い、感想や質問を共有する。

1期 7月11日(日)				
10:00～	～13:00	13:00～14:00	14:00～15:20	15:40～16:30
R5・R6 グリーフ（傷つきによる喪失に伴う反応） サバイバーセンターの在り方 （途中20分休憩） 中島幸子・西山さつき	昼食		R7 ストーカー行為・ リスクアセスメント 中島幸子	R8 ディスカッション 中島幸子・西山さつき
2期 11月7日(日)				
10:00～11:40	12:00～13:00	13:00～14:00	14:00～15:20	15:40～16:30
R13 性虐待 中島幸子・西山さつき	R14 ワーク 中島幸子・西山さつき	昼食	R15 加害者とは・ 境界線を理解する 中島幸子・西山さつき	R16 ディスカッション 中島幸子・西山さつき
3期 2月13日(日)				
RIFCR™ (9:00～18:20)				
山田・溝口・工藤				

【Rコース注意事項】

- ・時間割は、Aコース・SANEコースと異なる場合があります。ご注意ください。
- ・修了証はレジリエンスとRIFCR™は別々に発行されます。
- ・RIFCR™では修了証の氏名にローマ字が用いられますので、申込み用紙に必ず記載をお願いします。

SANE コース 性暴力被害対応看護職養成講座

1期 S1 SANEの役割と課題、IAFNとは 加納尚美

SANE: 性暴力被害対応看護職に求められる役割、資質、知識とは。日本の現状に即した中で、どのような活躍が期待されているのか。

S2 DV相談機関の活用 池田ひかり

虐待対応とは異なるDV被害者支援の基本的なスタンスやDV被害者支援体制とその利用方法を具体的に学び、支援ネットワークの中での医療者が求められる役割について理解を深める。

S3 病院拠点型ワンストップ支援センターにおけるSANEの実践 片岡笑美子

SANEの活動の場としてモデルとなる名古屋のワンストップ支援センターでの実践を知り、自分の今後の活動を考える。

S4 被害者の理解：社会編 土井真知

DVや性暴力に関する資料や調査結果から、被害の実態、一般社会で信じられている誤解と事実、社会において被害者が置かれている状況等を考える。支援の現場でとまどわないために。

S5 SANEが知っておくべき支援の原則 家吉望み

DV/性暴力被害にあった人に医療的ケアを提供するうえで、何に注意すべきか。やってはいけないこと、言っちゃいけない言葉、SANEだからこそできることや限界について、支援の原則を学ぶ。加えてSANEとして「倫理」について学ぶ。

S6・S7・S8 DVの急性期看護(DVD視聴) 三田村博子 ワーク：看護の実際①②【DV】 三田村・家吉

DV被害者支援について視聴覚教材で学び支援の原則を理解する。DV事例を用いた聞き取りやアセスメントの演習を通して支援者としての自分の課題について考える。

S9 ディスカッション：自分の仕事とSANE 加納尚美

2日間で得られた知識や情報を自分の今後の仕事や活動にどう活かせるかを考える。他の人の考えを聞きさらに深める。

2期 S10 保健医療対応：地域行政編 稲吉久乃

犯罪被害者等基本法には国と自治体と国民の責務があるとうたわれている。自治体としての支援を事例を通じて知り、使っていけるようにしたい。

S11 保健医療対応：産婦人科編 【妊娠と性感染症】 丸橋和子

性暴力被害によるからだへの影響はどのようなものがあり、緊急対応と長期的ケアとしてどのようなものが必要か。

S12・13・14 ワーク：私たちにできる連携①②③ 三隅順子

これまでの講座や地域・職場において得られた情報・知識から、自分たちなりに連携を模索する。当事者の様々なニーズに応えるための連携作りには何が必要か考える。

S15 保健医療対応：精神看護編 【トラウマインフォームドケア】 長江美代子

性暴力被害によるPTSDの影響により生活・社会不応となり再被害をくりかえすという悪循環や、子どもの逆境体験(ACEs)による悪性ストレスなどの社会的公衆衛生の課題を理解し、トラウマインフォームド・ケアの実践を学ぶ。

1期 7月10日(土)				
10:00~11:20	11:40~13:00	13:00~14:20	14:20~15:40	16:00~17:20
S1 SANEの役割と課題 IAFNとは	S2 DV相談機関の活用	昼食	S3 病院拠点型ワンストップ 支援センターにおける SANEの実践	S4 被害者の理解： 社会編
加納尚美	池田ひかり		片岡笑美子	土井真知
2期 11月6日(土)				
10:00~11:20	11:40~13:00	13:00~14:20	14:20~15:40	16:00~17:20
S10 保健医療対応： 地域行政編	S11 保健医療対応： 産婦人科編 【妊娠と性感染症】	昼食	S12 ワーク： 私たちにできる連携①	S13 ワーク： 私たちにできる連携②
稲吉久乃	丸橋和子		三隅順子	三隅順子
3期 2月12日(土)				
10:00~11:20	11:40~13:00	13:00~14:20	14:20~15:40	16:00~17:20
S19・S20 保健医療対応：子ども編 【子どもの性虐待/MDTについて】		昼食	S21 ワーク： 差別の感覚	S22 保健医療対応： 法医学編 【損傷の記録】
山田不二子			朴和美	主田英之

S16 保健医療対応：精神看護編 【トラウマおよびPTSDのアセスメント】 長江美代子

性暴力被害直後からの被害者の状態と経過、性暴力被害の精神病理を概観した上で、PTSD症状のアセスメントについて学び、尺度（PTSD症状、解離、うつ、不安）を用いた演習も行いながら、PTSD予防の心理教育について実践的に学ぶ。

S17 性暴力の証拠採取 検察の視点から 城祐一郎

性暴力に対する法律上の規制、発生時の証拠収集上の留意事項、収集した証拠の証拠能力及び証拠価値の法律上の評価、公判における性暴力事犯の問題点及び収集した証拠の活用状況等。

S18 二次受傷、感情労働、セルフケア 米山奈奈子

被害者支援では、支援者は支援を通して二次受傷を負う危険性がある。特に感情労働の特徴を理解した上でセルフケアの重要性を再認識できることを目指す。

3期 S19・S20 保健医療対応：子ども編【子どもの性虐待/MDTについて】 山田不二子

性暴力被害にあった子どもにはどのような症状が起きるのか。性虐待の疑いがあったとき医療者として気をつけなければならないことは何か。発達過程にある子どもの支援の特徴について解説する。また、MDTの重要性についても述べる。

S21 ワーク：差別の感覚 朴和美

対人支援に携わる者にとっても、差別は避けられない課題です。「絶対に差別しない自分」ではなく、「差別するかもしれない自分」の探求も必要になってくるでしょう。一緒に差別構造の複雑さにアプローチしてみませんか。

S22 保健医療対応：法医学編 【損傷の記録】 主田英之

身体的外傷の特徴と治癒経過をふまえ、暴力被害に関連する身体的外傷を正確に観察し、記録することはSANEにとって重要な仕事の一部。後に医学的証拠にもなりうるカルテ記載ができるよう、その知識や方法を学ぶ。

S23・24 ワーク：看護の実際③（損傷記録方法を含む） 家吉・三隅

性暴力のアセスメントのポイントを押さえ、証拠採取や記載方法を演習する。

S25 損傷記載の講評 主田英之

S26 性暴力被害者の急性期対応の基本 家吉望み

性暴力被害者に対する急性期看護についてポイントを確認する。

S27 支援の継続と発展 修了証授与 加納尚美

SANEでの学びについて各自の体験と知恵を出し合い、支援の継続と発展について考える。痛み、涙、笑い、悲しみなどさまざまな感情を自分の変化の糧として、新たな希望や抱負を拓く。

1期 7月11日(日)					
9:00~10:20	10:40~12:00	12:00~	13:00~14:20	14:40~16:00	16:10~17:00
S5 SANEが知っておくべき支援の原則	S6 DVの急性期看護(DVD視聴)	昼食	S7 ワーク：看護の実際①【DV】	S8 ワーク：看護の実際②【DV】	S9 ディスカッション：自分の仕事とSANE
家吉望み	三田村博子		三田村・家吉	三田村・家吉	加納尚美
2期 11月7日(日)					
9:00~10:20	10:40~11:30	11:30~	12:30~13:50	14:10~15:30	15:40~17:00
S14 ワーク：私たちにできる連携③	S15 保健医療対応：精神看護編【トラウマインフォームドケア】	昼食	S16 保健医療対応：精神看護編【トラウマおよびPTSDのアセスメント】	S17 性暴力の証拠採取 検察の視点から	S18 二次受傷、感情労働、セルフケア
三隅順子	長江美代子		長江美代子	城祐一郎	米山奈奈子
3期 2月13日(日)					
9:00~12:00		12:00~	13:00~13:50	14:10~15:30	15:40~17:00
S23・S24 ワーク：看護の実際③（損傷記録方法を含む） 休憩適宜		昼食	S25 損傷記載の講評	S26 性暴力被害者の急性期対応の基本	S27 支援の継続と発展 修了証授与
家吉・三隅			主田英之	家吉望み	加納尚美

講師について

麻鳥 澄江 あさとり すみえ	編集者。共著に『ドメスティック・バイオレンス』（教育史料研究会）、『女の遺言』（お茶の水書房）ほか。
家吉 望み いえよしのぞみ	助産師。東京有明医療大学看護学部教員。SANE。
池田ひかり いけだ ひかり	社会福祉士。精神保健福祉士。公認心理師。大学ハラスメント専門相談員。DV相談等スーパーバイザー。
稲吉 久乃 いなよし ひさの	精神保健福祉士。保健師。SANE。行政の犯罪被害者支援相談窓口の職員。
大橋由香子 おおはし ゆかこ	ライター・編集者、非常勤講師。女性と健康について執筆・活動。著書『満心愛の人』（インパクト出版会）ほか。
大原 康子 おおはら やすこ	3児のシングルマザー。母親の働き方に関する実践と研究を行う。立教大学院21世紀社会デザイン在学中。
片岡笑美子 かたおか えみこ	一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター 会長。 SANE-J。
片岡 麻衣 かたおか まい	弁護士。共編著に「セクシュアル・マイノリティの法律相談」（ぎょうせい）。
加納 尚美 かのう なおみ	助産師。茨城県立大学医学部看護学科教員。SANE。
上岡 陽江 かんが はるえ	精神保健福祉士。ダルク女性ハウス代表。当事者支援者として薬物依存女性の支援に携わる。
菊池美名子 きくち みなこ	国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部研究員。一橋大学大学院非常勤講師。
金 香百合 きむ かゆり	HEALホリスティック教育実践研究所所長。著書に『金香百合のジェンダーワークショップ』（解野社）。
熊谷 真弓 くまがい まゆみ	精神保健福祉士。婦人保護施設慈愛寮施設長。
佐々木貞子 ささき さだこ	DPI女性障害者ネットワーク副代表。DPI障害者差別解消ピアサポート相談員。
染矢明日香 そめや あすか	NPO法人ピルコン理事長。
城 祐一郎 たち ゆういちろう	昭和58年から35年間検事として勤務した後、平成30年4月、昭和大学医学部教授となり現在に至る。
丹野眞紀子 たんの まきこ	大妻女子大学人間関係学専攻教員。
中鉢 美之 ちゅうばち みゆき	任意団体「びーらぶ秋田」代表。女性相談員。社会福祉士。看護師。
柘植あづみ つげ あづみ	明治学院大学教員。著書に『生殖技術不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』（みすず書房）など。
角田由紀子 つのだ ゆきこ	弁護士。著書に『性の法律学』（有斐閣）、『性差別と暴力』（同）など。
土井 真知 どい まち	研究者。専門は医療人類学、対人援助論。看護専門学校兼任講師等を経て、現在は国の機関に勤務。
長江美代子 ながえ みよこ	SANE-J, 精神看護専門看護師（ANCC認定）、公認心理師。
中島 幸子 なかじま さちこ	NPO法人レジリエンス代表。著書に『マイ・レジリエンス』（梨の木舎）など。
西山さつき にしやま さつき	NPO法人レジリエンス代表。
主田 英之 ぬしだ ひでゆき	徳島大学准教授。大学院社会医学系法医学分野。
朴 和美 ばく ふあみ	在日朝鮮人女一人会
平尾 幸枝 ひらお ゆきえ	社会福祉法人カリヨン子どもセンター 理事。カウンセラー。
丸橋 和子 まるはし かずこ	産婦人科医。まるはし女性応援クリニック院長。
三隅 順子 みすみ じゅんこ	助産師。東京医科歯科大学大学院教員。SANE。
三田村博子 みたむら ひろこ	看護師。女性支援施設職員。
皆川満寿美 みなかわ ますみ	中央学院大学准教授。90年代から学生や市民にフェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティなどの講座を担当。
皆川 涼子 みなかわ りょうこ	弁護士。日本語を母語としない女性への司法支援や人身取引問題への取組みを積極的に行う。
森 あい もり あい	弁護士。「暴力DVは異性間だけの問題か？」（『セクシュアリティと法 身体・社会・言説との交錯』収載）など。
山田不二子 やまだ ふじこ	内科医。NPO法人チャイルドファーストジャパン理事長。
山本 潤 やまもと じゅん	看護師、保健師、SANE。著書に「13歳、『私』をなくした私～性暴力と生きることのリアル」（朝日新聞出版）。
湯本 洋介 ゆもと ようすけ	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター、精神科医。NPO法人ダルク女性ハウス理事。
米山奈奈子 よねやま ななこ	保健師。秋田大学大学院医学系研究科教員。SANE。